

# 老健にいがた

第35号

2014. 2 Vol. 35



「風神雷神図」 越南苑

## 目次

巻頭言	1	市民公開セミナー	14
協会だより	2	新潟県介護老人保健施設大会	15~16
特集：未来の介護	3 ~ 8	老健とわたし	17~18
研修会報告	9 ~ 13	みんなの広場	19

# 卷頭言



新潟県介護老人保健施設協会  
広報委員会理事  
アピラ大形 鈴木 雄二

私の所（アピラ大形）が開設されたのは、平成9年4月1日である。あの頃は、ベッド数がまだ少なく、設立の希望は多かった。その後、開設が進み、ベッド数は下記の通りである。

## 【介護老人保健施設のベッド数】

年		H18	H20	H22	H24	H26
新潟市	病床数	3,236	3,431	3,549	3,612	3,812
	(割合)	(1.91%)	(1.92%)	(1.89%)	(1.88%)	
新潟県	病床数	8,865	9,297	9,883	10,150	
	(割合)	(1.51%)	(1.54%)	(1.59%)	(1.62%)	

※( )内の%は、老齢人口に対する比である。

ベッド数の変化は、最近、乏しく、近年には満杯になったと言ってよいようである。今は、高齢社会のただ中にあり、高齢者はまだ増加していくが特別養護老人ホームは、増えていくかもしれないが、老健の増加は、それほどないようである。

## 【特別養護老人ホームのベッド数】

年		H18	H20	H22	H24	H26
新潟市	病床数	3,090	3,190	3,170	3,220	3,580
	(割合)	(1.83%)	(1.78%)	(1.69%)	(1.67%)	
新潟県	病床数	10,386	11,426	12,202	13,127	
	(割合)	(1.77%)	(1.89%)	(1.96%)	(2.09%)	

※( )内の%は、老齢人口に対する比である。

こちらは、新潟市で、H23年に老人施設の1000床増加が発表され、今年はそれが達成される。これに比べ、全県のベッド数は、まだ低く、もう少し増加していくとみられる。

何としても老人問題は、まだ目下の大検討事項ではある。この問題が、いつ解消となるかは、はつきりしないが、世界大戦後、日本を経済大国にまで、育ててくれた今の老年世代をうやうやしく見送ることが大切だろう。

話は変わるが、現在、日本の総人口は1億2千万人余りであるが、これは徐々に減少しつつある。それでは、どれ位が適切なのだろうか。私は、先進国の総人口、イギリス(5,000万人)、フランス(6,000万人)、ドイツ(8,000万人)を見て、東京の講義の席で講師にどう思うか質問してみて、ひどく叱られたことがある。前に他の国で検討してみたところ、予想がすっかり狂って人口は大はずれしたことがあり、それ以来、人口の予想数は当てにならないということになっているという。「8,000万人なら余った人達にすぐ死んでくれと言えるか」と言って叱られた。「私は何年か先に人口が徐々に減ったとしてどうか」と質問したのに何を言っているのだろうと驚いた。しかし、総人口は何人くらいが適切なのだろうか。これは、変動して予想できないものなのかもしれないが何となく予想してみたい気持ちがある。

余談を加えたが卷頭言とする。



## 第24回 全国介護老人保健施設大会 石川 in 金沢

第24回全国介護老人保健施設大会 石川 in 金沢（大会会長=北中勇全老健石川県支部長・石川県老人保健施設協議会会長）が7月24日から26日までの3日間、金沢市の石川県立音楽堂など7会場で「うつくしき川は流れたり そのほとりに我は住みぬ一住み慣れた地域で、その人らしくー」をテーマに、全国から4,746名が参加し開催されました。演題発表では全国から口演発表1,240題が集まり、各会場に分散して発表が行われました。

新潟県からは、口演発表25題(16施設)、ポスター発表4題(4施設)が発表されました。

なお、昨年開催の「第23回全国介護老人保健施設大会 美ら沖縄 演題発表 奨励賞」に下記3題が受賞されました。

- ・老人保健施設における糖尿病合併利用者の問題と対応  
(なでしこ)
- ・不安から笑顔へ ケアを通して深まる絆  
(てらどまり)
- ・オムツの横漏れ、なぜ起きる?  
～漏れへの対策と職員の意識改善～  
(ケアポートすなやま)



開会式の様子



発表の様子

### 非常災害に関する具体的 計画策定についてのお知らせ

新潟県における高齢者福祉施設等の人員、設備及び運営等に関する基準を定めた基準条例の規定により、各事業所において事象別の非常災害に関する具体的計画を策定する事となっております。

尚、経過措置として平成26年3月31日までの経過措置期間がありますので、お知らせします。

### 高齢者施設・介護保険サービス事業の 基準条例・規則等について

#### ★お問い合わせ先★

高齢福祉保健課 介護事業係

住所：950-8570 新潟市中央区新光町4番地1

電話：025-280-5194

ファクシミリ：025-280-5229

電子メール：[ngt040230@pref.niigata.lg.jp](mailto:ngt040230@pref.niigata.lg.jp)

掲載ホームページアドレス

<http://www.pref.niigata.lg.jp/kourei/1355094.html>

新潟県最低賃金は、従来の時間額689円から12円引き上げられ、平成25年10月26日から701円になりました。



お問い合わせ先：新潟県労働局労働基準部賃金室  
(025-288-3504)、または最寄りの労働基準監督署

# ロボットスーツHAL®

## 当法人で活用してみて

一般財団法人 上村病院 リハビリテーション科  
主任 理学療法士 廣田 昌人



### ■ロボットスーツ HAL® 福祉用とは

ロボットスーツ HAL® 福祉用（以下 HAL®）をご存知ですか？まだまだ知らない方も多いと思います。HAL® は山海嘉之筑波大学大学院教授（サイバーダイン株式会社 CEO）により開発された、下肢運動支援のための装着型ロボットです。

人が体を動かすと脳から運動ニューロンを介して筋肉に神経信号が伝わり（図 1）、筋骨格系が動作しますが、その際に微弱な生体電位信号が皮膚表面に現れます。装着者の皮膚表面に貼り付けられたセンサでこの信号を読み取り（図 2）、搭載されたコンピュータにより信号を解析し、装着者がどのような動作をしようとしているのかを瞬時に判断（図 3）、その動作を手助けする（図 4）のが HAL® です

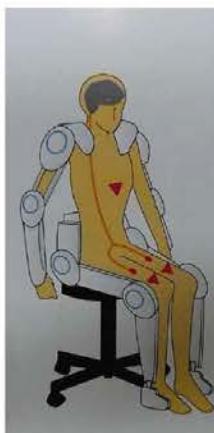


図 1



図 2



図 3

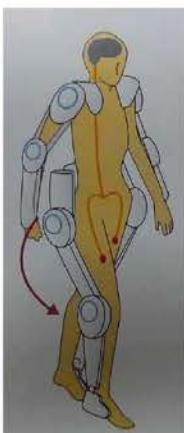


図 4



HAL® は各都道府県に普及しており、全国約 160 の病院・施設に導入されています。テレビや新聞などで目にしたことはあっても、実際に皆さんができる機会はまだまだ少ないようです。新潟県内には、厚生連新潟医療センター（新潟市西区）、新潟リハビリテーション病院（新潟市北区）、国立病院機構新潟病院（柏崎市）と一般財団法人上村病院（十日町市）の 4 病院に導入されています。平成 24 年 8 月より、当法人にも導入され、病院、老健、通所リハビリテーションに於いて HAL® を装着した動作練習を 21 名、延べ 244 回実施しました。疾患別では脳血管疾患 10 名、パーキンソン病等 5 名、下肢骨折 2 名（うち 1 名は既往に脳血管疾患あり）、脊髄疾患 3 名、遠位型ミオパチー 1 名と多岐にわたっています。

### ■ HAL® を使用するまで

まず HAL® を装着する条件を満たしているか確認する必要があります。HAL® の適応サイズに該当

する（身長や体重など）、重度の認知症でない事、ペースメーカーの埋め込みがない、などです。適応であるならば主訴・目標・希望などを問診し、基本的な身体検査や評価を実施してから装着・練習を行います。

## ■リハビリテーション

動作の練習は段階的に行います。①股関節・膝関節の単関節運動、②立ち座り運動、③スクワット、④立位・左右荷重バランス練習、⑤もも上げ・踏み出し練習、⑥歩行練習、⑦階段昇降練習などを組み合わせ、本人の状態や能力に合わせ、平行棒や歩行器、免荷機能付き（吊り下げ式）歩行車などを使用し練習を行います。

## ■装着された方々の感想

ベルトにより固定されるため拘束感や違和感を訴え継続できなかった方もいらっしゃいますが、「練習後は足が軽くなる」「動き易い」「足の踏ん張りがきく」などと話してくださる方のほうが多いです。また、最新の機器を利用してのリハビリテーションであると認識される方も多く、意欲の向上にもつながっていると感じています。

## ■実際のリハビリでは

73歳男性で胸髄硬膜内血管腫により下肢が麻痺し2年弱、歩行できなく、血管腫を摘出後にHAL<sup>®</sup>を利用したリハビリテーションを行った方の紹介をします。初めは介助がなければ立ち上がれないような状態で、小脳梗塞の既往もありうまく下肢をコントロールできない状態でした。通常のリハビリテーションに加え、HAL<sup>®</sup>を利用したリハビリテーションを週に1～2回の頻度で行いました。危険の無いように免荷機能付き歩行車を利用し、まずは起立・立位保持できるように練習を始め、徐々に歩行練習へと練習を進めました。装着当初「2年ぶりに歩けた～」と本人及びご家族様ともに涙して喜んでいました。最終的には、平行棒内の歩行が可能となりました。起立・歩行ができるようになることで、本人の意欲が高まりリハビリテーション以外へも積極的に参加されるようになりました。起居動作、移乗動作も自立し、車いすでの生活が可能となり、自宅に退院されました。



## ■おわりに

不慣れな中、ご協力いただいている方々には感謝しきれない思いです。HAL<sup>®</sup>を利用したリハビリテーションで、入院患者様、施設利用者様にもっと喜んでもらえるようになりたいと思っています。今後、リハビリテーションで利用するだけでなく、『HAL<sup>®</sup>を装着し、日常生活を送る』のような時代が来るかもしれません。

# 自立を可能にする機器の開発

生きている限り自立した生活の実現を目指して

東京理科大学工学部機械工学科

教授 小林 宏

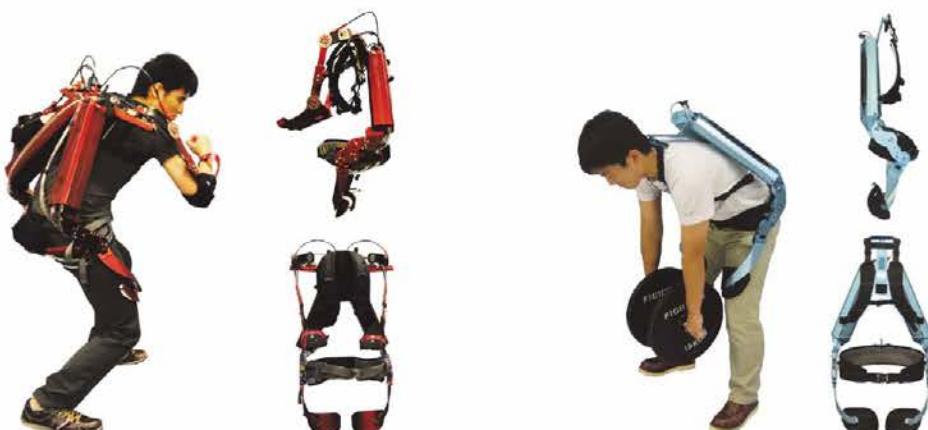


## 1. はじめに

人間を極度の苦役から解放すること（肉体的な負担からの解放）が、ロボットに代表される機械システムに期待すること、および役割であったが、輸送機器、重機、産業用ロボットなどにより、20世紀にはそれが実現されたといつても過言ではない。では、21世紀に機械システムは何を実現しなければならないかを考えたとき、肉体的な負担からの解放に加えて、精神的な負担からの解放が重要ではないかと考えている。自分の意志で動けなくなり、誰かに面倒を見てもらうこと、介護してもらうことが、究極的には最も大きな精神的負担になるのではないかと考え、このような精神的負担からの解放を実現するために、本当に役立つ技術の究極の形態として、「生きている限り自立した生活ができること」を目標に、様々な新しい人間支援システムの研究開発を行っているので紹介する。

## 2. 腰補助用マッスルスーツ

著者は2001年から、人間の動作を物理的に支援することを目的に、着用型の筋力補助装置：マッスルスーツ<sup>®</sup>（東京理科大学の登録商標）の開発を行っている（図1）<sup>1)5)</sup>。マッスルスーツは、日常生活での利用を考え、非金属、軽量、高出力のMcKibben型人工筋肉をアクチュエータとして採用し、容易に脱着できる構造となっている（腰補助用は20秒以内）。また、着用により原理的にはあらゆる動きの補助が可能となるため、肉体労働者の姿勢保持や筋力補助、要介護者・動きが困難な身体障がい者の筋力補助、リハビリテーションなどに適用可能である。マッスルスーツは現在、腰+腕補助用と腰補助用があり（腕補助は2001年から、腰補助は2006年から開発開始）、メディアでは前者がよく紹介されるが、肉体労働者は一般的に腰痛に悩まされていることから、まず腰補助用マッスルスーツの実用化を目指し、現在、複数の企業と開発を進めている。2014年秋には販売を開始する予定である。



腰+腕補助用マッスルスーツ<sup>®</sup>

腰補助用マッスルスーツ<sup>®</sup>

図1 着用型筋力補助装置：マッスルスーツ<sup>®</sup>

### 3. アクティブ歩行器

上半身だけでなく、下半身の補助、すなわち歩行補助も行いたいと当初から考えていた。しかし、上半身と違って下半身の場合は、常に転倒の心配があり、なかなか開発に着手できなかった。

2004年の4月、大阪で行われていた福祉機器の展示会で「ハートウォーカー」(図2)に出会った。「ハートウォーカー」は、イギリスのメディカルエンジニア David Hart 氏が1989年に製品化した両手が自由に使える「子供用歩行器」で、世界中で6000人以上が使用している。その構造は、「体幹付き長下肢装具」に「四輪歩行器」を組み合わせたものである。ハートウォーカーでは、長下肢装具(ブレース)の腰部分を、四輪歩行器の真ん中にあるポール(ステム)の先端に取り付けることで、転倒の心配が無く、世界で初めて「正しい姿勢での歩行」を実現している。このハートウォーカーに人工筋肉をとりつければ、転倒の心配が無く、全く筋力が無くても人工筋肉によりアクティブ(能動的)に脚を動かして歩くことが可能になると思い、ハートウォーカーを使った新しい歩行器、アクティブ歩行器(製品名ハートステップ:図3)の開発をその時から開始し、製品化した<sup>6),7)</sup>。一生寝たきりと言われた方が、自力で立って歩行できるようになった例もある<sup>8)</sup>、訓練効果は非常に高いと考えている。

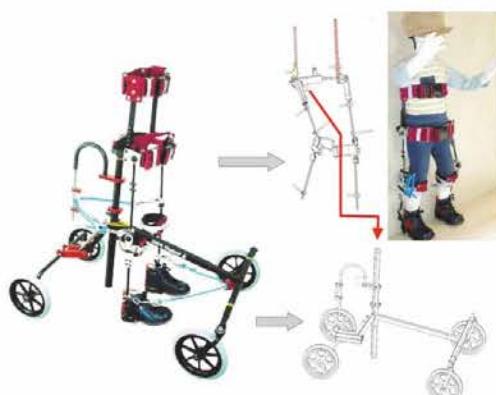


図2 ハートウォーカー



図3 ハートステップ



図4 大人用アクティブ歩行器

ところでハートウォーカーは、体を持ち上げて乗せる必要があり、体重の軽い子供の場合は対応できるが、大人では非常に重労働となる。そこで新たに、車いす型の大人用アクティブ歩行器を開発した。基本的に車椅子の形をしており、座らせた状態で装着し、モータにより立ち上がり、ハートステップと同様に転倒の心配なく歩行訓練を行うことができる(図4)。現在、装置の改良と臨床試験を進めている。

#### 4. その他の機器の開発



図5 ロボット受付嬢SAYA



図6 先生ロボットSAYA



図7 デイケアセンターのSAYA

情報やコミュニケーションの支援のために開発しているシステムに、アンドロイドロボット SAYA<sup>9)-12)</sup>がある。SAYA の最大の特徴は、人間のような豊かな表情を表出することで、表情と音声で人間とのコミュニケーションが可能である。2004年から世界初のロボット受付嬢として、本学の入試センターで受付業務を開始した(図5)。その際、子供や高齢者にはとても人気があったため、特に子供の理科離れ、技術離れの対策として、先生ロボットを考案した(図6)<sup>13)</sup>。2009年1月から先生ロボットとしての実験を開始したが(AP、ロイターにより、世界にニュースが配信)、子供たちには非常に人気が高く、一生忘れられない授業となっているようであり、技術やモノづくりに興味をもってもらうことができていると考えている。また、医学部生や看護学生の学習用にうつ病の症状を表情やしぐさ、受け答えで実現したり、最近ではデイケアセンターのレクレーションで使用したりしている(図7:中央奥に座っているのがSAYA)。



図8 嘔下ロボット



図9 排泄ロボット

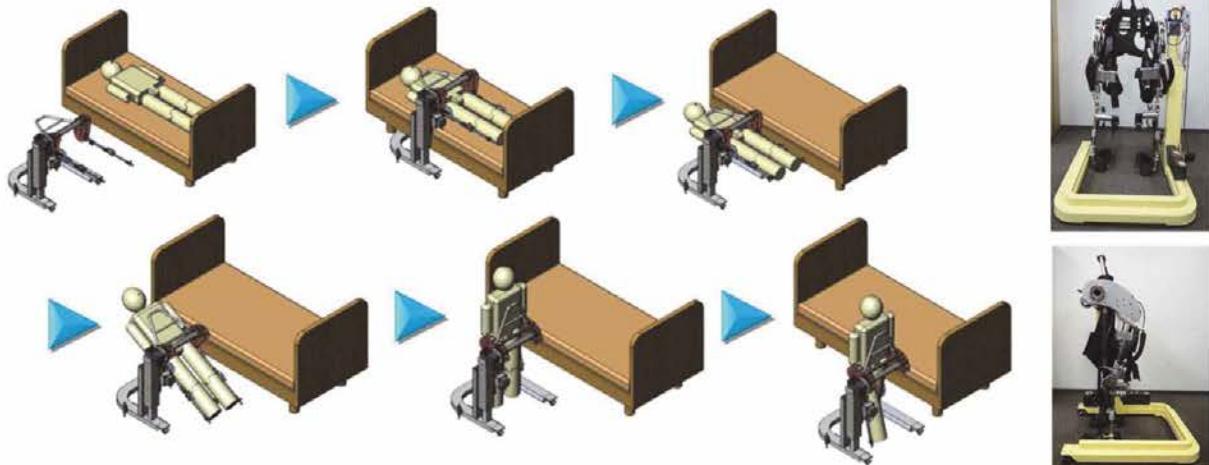


図10 寝た状態で取り付け、立ち上がり歩行を可能にする新しい自立支援装置

物を飲み込む動作である嚥下（えんげ）は、そのメカニズムが未だ不明確であること、また、食べ物が誤って肺に入ってしまう誤嚥が、65歳以上の高齢者の肺炎の原因の約70%となっていることから、その動作の全容解明は、自立した生活を実現するために不可欠な要素の一つである。著者らは、MRIの動画版であるシネMRIにより嚥下動作を解析し、それをロボットにより実装するという取り組みを通して、嚥下動作の全容解明を目指している（図8）<sup>14)</sup>。

また、排泄処理も同様に自立生活には重要な課題である。著者はこれまでとは異なるコンセプトで新しい構造のトイレ開発も進めており<sup>15)</sup>、その一環で人間と同じメカニズムでうんちをするロボット（排泄ロボット 図9）の開発を進めている。

さらに、介護者の肉体的な負担なしに、寝たきりの方を立たせて歩かせることを可能とするために、図10に示すように、寝た状態で装置を取り付け、装置により立ち上がり、歩行が可能となる装置を開発している。現在、プロトタイプが完成し、臨床試験を始めたところである。

## 5. おわりに

「生きている限り自立した生活がすること」を目標に、著者が行っている機器の開発の一部について簡単に紹介した。基本的には全て実用化するつもりであり、今後も積極的に開発を進めていく。

## 参考文献

- 1) Hiroshi Kobayashi, Taisuke Matsushita, Yusuke Ishida and Kohki Kikuchi: New Robot Technology Concept Applicable to Human Physical Support -The Concept and Possibility of the Muscle Suit (Wearable Muscular Support Apparatus)-, Journal of Robotics and Mechatronics, vol.14 No.1, (2002), pp..46-53.
- 2) Hiroshi KOBAYASHI, Akitaka UCHIMURA, Yujiro ISHIDA, Taichi SHIIBA, Kazuaki HIRAMATSU, Makoto KONAMI, Taisuke MATSUSHITA, and Yutaka SATO: Development of Muscle Suit for Upper Body - Realization of Abduction Motion -, Advanced Robotics vol.18 No.5, (2004), pp..497-513.
- 3) 小林宏, 鈴木秀俊, 伊庭雅弥, 長谷川翔:上肢動作補助用マッスルスーツの肩機構開発と姿勢制御手法の提案, 計測自動制御学会論文集, Vol.42, No.4, pp.376~385 (2006-4).
- 4) Hiroshi Kobayashi, Takamitsu Aida, and Takuya Hashimoto, Muscle Suit Development and Factory Application, International Journal of Automation Technology, Vol.3, No.6, pp..709-715 (2009.11).
- 5) Yoshiki Muramatsu, Hiroyuki Kobayashi, Yutaka Sato, He Jiaou, Takuya Hashimoto, and Hiroshi Kobayashi: Quantitative Performance Analysis of Exoskeleton Augmenting Devices -Muscle Suit- for Manual Worker, International Journal of Automation Technology, Vol.5, No.4, pp..559-567 (2011.5)
- 6) Hiroshi Kobayashi, Takeo Karato, So Nakayama, Kazutaka Irie: Development of an Active Walker and Its Effect, Third Asia International Symposium on Mechatronics, pp.381-386 (2008.8)
- 7) Hiroshi Kobayashi, Takuya Hashimoto, So Nakayama and Kazutaka Irie: Development of an Active Walker and Its Effect, Journal of Robotics and Mechatronics, Vol.24, No.2, pp.275-283 (2012.4)
- 8) <http://www.youtube.com/watch?v=f0meCS4qtiw>
- 9) 小林, 原, 内田, 大野: アクティブ・ヒューマン・インターフェース (AH I) のための顔ロボットの研究 (顔ロボットの機構と6基本表情の表出), 日本ロボット学会誌学術論文, Vol.12, No.1, pp.155-163 (1994-01)
- 10) 小林, 原:顔ロボットにおける6基本表情の動的実時間表出, 日本ロボット学会論文集, 14巻5号, pp.677-685 (1996-05)
- 11) 橋本卓弥, 平松幸男, 辻俊明, 小林宏: ロボット受付嬢SAYAを用いたリアルなうなづきに関する研究, 日本機械学会論文集C編 Vol.73, No.735, pp.3046~3054 (2007-11)
- 12) 橋本卓弥, 平松幸雄, 辻俊明, 小林宏: ライフマスクを用いた顔ロボットによる動的表情表出, 日本機械学会論文集C編, Vol.75, No.749, pp.113~121 (2009.1)
- 13) Takuya Hashimoto, Naoki Kato, Hiroshi Kobayashi, "Study on Educational Robotic System Using Android Robot SAYA for Elementary School Children", Proceedings of the 43rd International Symposium on Robotics (ISR 2012), pp. 237-242, 2012.8.29-31(2012).
- 14) 提坂清志, 小林宏, 道脇幸博, 飲み込むメカニズム解明のための嚥下ロボットの開発, 日本ロボット学会第30回記念学術講演会 講演概要集, 2A2-U07, 2012.
- 15) Koushi Tokoro, Takuya Hashimoto, and Hiroshi Kobayashi, "Development of New Toilet System" , Proceedings of the 1st Annual IEEE Healthcare Innovation Conference of the IEEE EMBS, pp. 105-108, 2012.

# 高齢者のリハビリテーション研修会

今回の研修では講義・事例演習を通じて認知症の理解を深め、残存能力を引き出すための関わりについて学びました。

## 講義 「認知症の方の理解と対応の基本的な考え方」



### 石井利幸講師プロフィール

医療法人社団慈泉会 介護老人保健施設ひもうぎの園（福島県白河市）

福島県認知症介護指導者 リハビリテーション科長 作業療法士

日 時：平成25年8月2日(金)

会 場：新潟ユニゾンプラザ

参加施設：49施設

参加人数：93名

## 講義内容

- ①認知症の進行と中核症状の理解
- ②認知症の方の主観的世界の形成過程の理解
- ③BPSD(認知症の行動心理症状)の理解と対応の考え方
- ④認知症の方のADL・IADLの障害と残存能力の引き出し方



## 事例演習とグループワーク



### ～参加者の声～

- ・認知症は「治す」だけでなく「遅らせる」ことが大切。進行が本人だけでなく環境も含まれていることの意識付けが出来た。
- ・相手の話をよく聞き否定はしないと言われていたが、実際業務しながらだと否定することもある。心にゆとりを持って話をききたい。
- ・こちらからしたら問題になることも本人はそんなつもりはないので、まずなぜその行動をしたか探り、そこのケアをしていきたい。
- ・相手のことを理解し、少しでも不安感を軽減させるかがカギになると思った。
- ・「もっとできることを細分化して考える」ということをチームで考えてやってみなければならぬと思った。
- ・出来ない所にばかり目が行きがちだが、残存機能をしっかり評価し、その後の対応をスタッフ間で話し合い、利用者の能力を維持することが大事だと思う。

# 介護記録の書き方講座



株式会社ねこの手 代表取締役 伊藤亜記氏(介護福祉士)を講師に迎え、「介護現場のモチベーションを上げる! 介護記録の書き方」と題し講義・演習が行われました。

介護職員を中心に、看護職員・介護支援専門員といった職種が講座に参加し、皆さん講師のパワフルな講座に力を戴いたようです。

## 講義

- I 「介護記録の目的と重要性」
- II 「介護記録の意義」
  - A. 介護記録の必要性、重要性の理解
  - イ. 介護記録の基礎知識と活用について

### ～コンプライアンス～

講師の祖母、父の介護体験や施設との出来事、自ら介護業界に身を投じ、得た実体験から介護業界の常識、一般家庭では非常識であることが、介護記録という証拠から実は全てが見えてくる。といった切り口で、参加者はもう一度利用者、その家族の目線に気付かされました。

## 演習

- III 「介護記録の書き方、活かし方」
  - A. 法令遵守・実地指導に対応した記録
  - イ. 介護記録の確認、ポイント
  - ウ. 記録の点検

### グループワーク



「あやとり」で毎日コミュニケーションを取るようになりました。ケアマネさんの関わり方に場内関心しきりでした。

### マンツーマン指導



グループワーク開始から質問者が後を絶えず、文字通り「ネコの手を」借りていた参加者の皆さんでした。

## 講義風景



佐渡市、村上市から糸魚川市など広域から参加。普段あいまいにしていた? テーマだったのか関心が高く、参加者は一様に真剣な面持ちでした。

ビフォーアフターこそ  
《介護の力》  
その過程を記録に!



## アンケート結果

期待以上の内容を学べた 39人  
期待通りの内容を学べた 28人  
やや不満 3人  
(回収率 89.7%)

### ～参加者の声～

- ・記録の書き方だけではなく、日々の仕事の基本的な考え方を再確認できた。
- ・他施設の記録を見る事ができ、勉強になった。
- ・自分の施設の問題点を明確に見直すきっかけができた。
- ・日々の業務に追われ、記録があろそかになっていた。ケアプランの大切さ、記録の大切さを改めて実感した。
- ・講師がとにかく素晴らしい。エネルギーでステキ♪また講義を受けたい。

# ひやり・はっと、事故防止対応研修会

今回、トラブル防止検討委員会の初めての試みとして、学術研修委員会との共催で、「ひやり・はっと、事故防止対応研修会」を開催し、大勢の方が参加しました。

日 時: 平成25年10月2日(水)  
会 場: アトリウム長岡  
参加施設: 52施設  
参加人数: 110名

インターリスク総研上席コンサルタント 松岡伸輔氏より、「介護事業者の法的責任と事故対応について」と「クレーマーへの対策について」に関して講義していただきました。法律等難しい内容もありましたが、裁判の判例等で具体的にわかりやすく説明していただきました。またクレーマーの対応に関しては、11グループに分かれグループワークを行い、各施設のクレーマーと思われる方に関する情報交換が活発に行われました。



その後、公益社団法人全国老人保健施設協会常務理事 本間達也氏より、「ひやり・はっと、事故防止対応について」に関して講義していただきました。医師であり、医療法人の理事長である先生の実体験に基づくリアルなお話だったので、身近に感じることができ、とても参考になりました。またユーモアのある、テンポの良い楽しいお話を引き込まれ、あっという間の研修会となりました。



どちらかというと難しいテーマではありましたが、内容も充実し、「期待以上の研修会だった」、「また開催して欲しい」と言う声が多数聞かれました。

## ～参加者の声～

- ・現場の生の声もあり、興味を持って聞く事ができました。本間先生の「知識より意識」という言葉が印象に残り、心がけていきたいと思いました。
- ・家族に謝罪することに関して、謝罪の種類が二種類あるので、謝罪することをためらわなくていいという話があり、とても参考になりました。
- ・研修のテーマ自体は難しい内容でしたが、先生の講義はわかりやすく、話も楽しくあっという間でした。学んだこともたくさんあり、有意義な研修でした。

# 現場すぐできる実践講座

## ～摂食・嚥下障害に対するアプローチと歯科介護の実際～

明倫短期大学准教授 江川広子氏をお招きし、歯科介護についての講義と演習が行われました。講義では、摂食・嚥下の基礎知識や現状、評価方法などを、また演習では口腔清掃や唾液腺マッサージなどを分かりやすく丁寧に説明とご指導をしていただきました。



日 時：平成25年11月7日(木)  
会 場：新潟ユニゾンプラザ  
参加施設：43施設  
参加人数：77名

### 〈江川 広子 氏 略歴〉

新潟大学大学院歯科総合研究科  
博士課程 修了

- ・明倫短期大学准教授
- ・新潟大学歯科口腔生命福祉学科  
非常勤講師
- ・歯友会住宅介護支援センター  
介護支援専門員・非常勤
- ・新潟市介護保険認定調査員

「口腔ケアは、できるだけ最後まで口から食べていただき、要介護者のQOL向上を目指す援助方法の1つです。そのためには、その人の立場に立ったケア、できるだけご本人の希望に沿うように配慮する必要があります」と繰り返し説明されていました。



### ～参加者の声～

- ・歯ブラシをカットして介護者に合わせた道具を作る！ぜひ現場で試してみたい。
- ・今まで自分の行っていた口腔ケアとの違いに驚いた。
- ・顔面筋のマッサージを実践してみたい。指のリハビリもレクに取り入れてみたい。
- ・看取り対応の方に対する口腔ケアが分からなかったので、今回の講座で学んだことを参考にしたい。

# 褥瘡・拘縮対策研修会

平成25年11月25日に褥瘡・拘縮対策研修会として、下元佳子先生を講師に迎え、実技を中心に研修を行いました。

日 時：平成25年11月25日(木)  
会 場：アトリウム長岡  
参加施設：39施設  
参加人数：69名



## 下元 佳子 先生 プロフィール

理学療法士、介護支援専門員、福祉用具プランナー

生き活きサポートセンターうるば高知代表、日本在宅褥瘡創傷ケア推進協会理事

10グループに分かれ、移乗・起き上がり・体位変換等の実技を行いました。介護される側になった時に、力任せの方法は苦痛で不安であるが、適切な介護方法を行った時には楽で安心感があると体験でき、貴重な時間となりました。

後半にはスライディングシート・グローブ・クッション等の説明があり、介護用具の利用方法についても教えていただきました。



## ～参加者の声～

- 今まで自分が行っていたポジショニングが一人一人の利用者に合っていないかだと感じられ、正しいポジショニングのやり方が学べて良かった。
- 実技は職場では学んだことのない内容でした。ベッドから車イスへの移乗も本当にやりやすかったです。いかに双方負担の大きいケアをしていたか、良くわかりました。
- 体験して、はっきり効果の違いが分かる内容だったので面白かった。
- 現在、施設で使用している体交枕の種類とは違うクッションの存在を知り、実際に自分で体験できて良かった。体重の流れも感じ取れて良かった。

## アンケート結果

期待以上の内容を学べた

49人

期待通りの内容を学べた

12人

やや不満 2人

無回答 2人

# いつまでもいきいきと 介護いらずの体と心づくり

講師として、介護ジャーナリストの小山朝子氏をお迎えし、市民公開セミナーが新潟県介護老人保健施設大会と合わせて開催され、多数のご参加を頂きました。

- 介護を防いで、いつまでもすこやかに
- 知って得する住まいのあれこれ
- 介護施設の選び方のヒント
- 年を重ねても楽しく生きるコツ

といった内容を中心に、丁寧で一般参加者にもわかりやすい言葉で話が進められ、口腔体操などの実技をmajえ、とても有意義な時間を過ごすことができました。

## 小山 朝子氏 プロフィール

東京都目黒区生まれ。  
介護ジャーナリスト、介護福祉士。  
20代から9年8ヶ月にわたり洋画家の祖母を介護した経験をもとに、家族・ジャーナリスト・介護職の視点から各地で講演を行う。執筆活動のほか、新聞・雑誌等のメディアでのコメントも多い。  
「朝子の介護奮闘記」、「イラスト図解アイデア介護」(全5巻)など著書多数。  
高齢者アクティビティ開発センター講師・評議員、日本在宅ホスピス協会役員



セミナーの中で、「“やさしい嫁さん、寝たきりつくる”という言葉はありますが、寝たきりにならないように“Do it my self”自分でできることは自分ですることが大切です。出来る限りご利用の方々のできるADLを維持できるよう支援していきたい。そして、“介護のいらない体づくり”を目指して頑張っていきたい」といったお話しがありました。

## ～参加者の声～

- ・私も生きているうちに大切な人とたくさんコミュニケーションをとろうと思います。
- ・笑顔で体操をすることはとても良いことだと思います。
- ・介護いらずの体と心をつくるには、普段から自分らしく年齢を重ねていくことが大切なと思った。前向きに生きていきたい。
- ・どのようにすれば介護予防ができるのか、おいしく食事を食べる工夫、できることを聞かせてもらった。
- ・口の体操など、施設でもできそうなことを紹介していたのでためになった。

# 平成25年度 新潟県介護老人保健施設大会

平成25年12月13日(金)新潟ユニゾンプラザにおいて「新潟県介護老人保健施設大会」が79施設から357名のご参加を頂き開催されました。

7会場(口演5会場・ポスター2会場)にて口演発表75題、ポスター発表16題が行われました。

今回は各施設からの発表以外に、新潟県介護老人保健施設協会トラブル防止検討委員会からも発表が行われました。



## 開会式



新潟県介護老人保健施設協会  
会長 馬場 肝作



新潟県医師会  
理事 高木 顯 様



新潟県老人福祉施設協議会  
会長 市井 栄吉 様

## 会場の様子



## ～学術奨励賞演題～

演題	施設名	発表者
家族から得た看取り同意書と現実のギャップ	ケアポートすなやま	丸山博子
職員の危機意識に関する調査	国府の里	岩片ひとみ
経口摂取の架け橋はいつもの先生	さくら苑	神田慎二
みえない障害・・・僕のことを分かって！	晴和会田上園	小柳麻美
オレにもやらせてくんせや	てらどまり	堀澤奈緒子
『車椅子・ベッド周囲の安全に対する工夫』	なでしこ	渡辺賢哉
排泄はトイレでしょう。	女池南風苑	渡邊良美
異食行為・居室間違い・・・私は何をしてるんでしょう	やすらぎ園	風間良美

(施設五十音順・敬称略)



受賞された皆さんです。どなたも、とても嬉しそうで満面の笑顔。  
記念撮影はみんなでピース！

参加者投票により選ばれた2題の発表者に受賞した感想等をインタビューさせて頂きました。

### インタビュー内容

1. 受賞した感想
2. 受賞を誰に伝えたい？
3. 研究のアピールしたい点は？
4. 苦労した点は？

### ～受賞者の声～

#### なでしこ 渡辺さん

1. 吉報を知られた時は、喜びよりも驚きの方が勝り、冗談半分でメンバー同士で「もしかしたら受賞するんじゃない？」と言っていたことが現実となり、みんなで頑張った甲斐があったと喜んでいます。ウレシィー!!
2. もちろんメンバーのみんなとなでしこスタッフ全員、そしてご協力ご理解をいただいたご利用者様とご家族ですね。ありがとうございます。
3. 身近に手に入る材料で、さらに安価で簡単に設置できる点…と…プレゼン力！(笑)
4. 研究期間中のトラブル（異食）発生で中止も検討しましたが、結果的にリスク回避に対する気づきにつながって良かったと思います。

#### さくら苑 神田さん

1. たくさんの方の協力があったからこそ、頂けた賞です。本当に感謝しています。ありがとうございました。
2. 今回の研究に協力して頂いた歯科の先生と上司、また対象利用者様です。皆さん、快く了承して下さいました。また一緒に研究に取り組んだ職員にも感謝の気持ちを伝えたいです。
3. 経口移行に歯科医師が介入する事で、職員が不安なく自信を持って対応出来ました。皆さんの施設でも、施設長や管理されている方の支援のもと、お近くの歯科医師に相談してみてはいかがでしょうか。
4. あまり歯科医師と関わることがなく、上手く連携できるか不安でしたが、『口から食べていただきたい』という、共通の目標があることで、スムーズな連携ができたと思います。改めて、改善に向けて踏み出す勇気ある一步が大切なだと感じました。

# 老健とわたし

様々な職種の職員の方が、それぞれの専門性を活かしながら施設を支えています。その職員の方の声と人柄をお届けします。

## 五頭の里 理学療法士 斎藤英子

- ① 阿賀野市
- ② 25年目
- ③ 様々な経験をお聞きできることはとても励みになります。また、優しさや笑顔をいただけたときは幸せな気持ちになります。
- ④ 大きなスクリーンのあるレクリエーションルームがあります。
- ⑤ 利用者様がその方らしい生活を続けるために様々な職種と連携を図りながら関わらせていただきたいとおもいます。



## にいがた園 看護職員 小島幸江

- ① 新潟市中央区
- ② 32年目
- ③ 入所者の方々がアクシデントなく1日を過ごせた時
- ④ 老健施設としては新潟市内で一番最初に出来た施設です。(昭和63年)
- ⑤ 未熟な私は日々発見と反省の連続ですが、家庭的でパワフルなスタッフに助けられながら楽しく仕事をさせてもらっています。少しでも入所者の方の手助けになれるよう笑顔を忘れずに頑張っていきたいと思います。

## やすらぎ園 介護福祉士 小網由希恵

- ① 長岡市
- ② 6年目
- ③ 感謝の言葉をもらえたときや笑顔をもらえたとき
- ④ 園を囲んで咲いているバラがとても綺麗です。時期になると園外喫茶があり、お茶を飲みながら花を眺めることができて、ご利用者様もとても喜ばれています。
- ⑤ まだまだ未熟ですが、たくさんの方と関わる仕事を通して多くを学び、介護士としてだけでなく人としても成長していけたらと思います。



### 質問内容

- ① 施設所在地
- ② この職種についての年数
- ③ この仕事のやりがいを感じる時
- ④ 施設のプライド
- ⑤ メッセージ



### 越南苑 支援相談員 上村 智子

- ① 南魚沼市
- ② 13年目
- ③ 笑顔で感謝される時 “何らかの力になれたのだな”と嬉しく感じます。
- ④ 在宅復帰に向けたりハビリや認知症ケアの拠点として、またご相談によってお看取りもお手伝いする、地域唯一の老健です。
- ⑤ 人生の大先輩である利用者様、ご家族様との出会いの中で、まだまだ教えて頂く事が多い毎日です。地域での信頼を今まで以上に築きながら、より良い援助が行えるよう努力していきたいと思います。

### 米山爽風苑 事務職員 小栗 俊史

- ① 柏崎市
- ② 9年目
- ③ ご利用者や家族の方々から、「この施設を利用できて良かった」という言葉を掛けて頂いた時。
- ④ 柏崎市郊外、霊峰米山を仰ぎ、松林に囲まれた柏崎厚生病院併設で、思いやりと熱意を持ったスタッフで運営されています。
- ⑤ 現場で働くスタッフと違って、ご利用者の皆様と深く接する機会は多くありませんが、可能な限りもっと触れ合いの機会を多く持ち、少しでも施設で有意義に過ごしていただける手助けをできたら幸いです。



### グリーンヒル与板 管理栄養士 佐藤 さゆり

- ① 長岡市
- ② 8年目
- ③ 「おいしかった！」という表情が見られた時。
- ④ 小高い丘にあり眺めが良い環境です。
- ⑤ 開設当初より直営で行われています。新鮮な食材を選択することが出来、食材の切り方や調理法がより良いものになるように日々検討しています。生活の楽しみの一つとして喜ばれる食事作りを目指していきたいです。



# ひのひの広場

## 五頭の里

こちらの作品は、色つきの紙テープを3cmに切り分け、くるくる巻き直径1mmのピン状にし、風景や花などの下絵に合わせて、このピンを1本1本貼り付けています。1作品に何百本も使います。とても根気のいる作品です。



## 越南苑

ご利用者様とスタッフが一緒に作成した「風神雷神図」の屏風です。縦1.8m×横3.6mの大きな作品です。細かく千切った和紙を皆で一つ一つ丁寧に貼っていきました。威風堂々とした姿で今日も利用者を見守っています。



## にいがた園

入所者様の作った折り紙です。

みなさん最初のうちは単純なものから始めますが、いつのまにやらレパートリーが増えています。



## 米山爽風苑

この赤富士の絵は、当苑に入所されている皆様が、毛糸の三つ編みを一本一本丁寧に編み上げ、さらにその約1000本もの三つ編みを根気強く貼り付けてください半年がかりで完成した、渾身の作品です。



## やすらぎ園

全棟入所者が協力して、泳ぐ宝石といわれる錦鯉を紙粘土等で作りました。今にも泳ぎだしそうな活き活きした作品に仕上がりました。毎年開催している敬老会の作品展や、長岡市が開催する福祉展にも出展しました。



## グリーンヒル与板

自宅のリフォームで入所されたご利用者が今回挑戦したのはヨーヨーキルト。左手のみで地道に作成し見事完成！待ちに待った新しい自室の飾りに。人に頼るのでなく自分で行うという意識も高まり、自信もつきました。



## 編集後記

まだまだ寒さが続きますが、皆様いかがお過ごでしょうか。お陰様でこの度「老健にいがた」第35号を発行することが出来ました。発行に際し、原稿依頼に快くご協力頂いた皆様に紙面を借りてお礼申し上げます。

今号の特集では、未来の介護ということで介護用ロボットスーツ、動作補助ウェア（マッスルスース）について取り上げています。今後ますます介護の需要が高まっていく時代にはとても興味深い内容となってあります。今後も役に立つ情報を届けられるよう広報委員会一同頑張りたいと思いますので、よろしくお願い致します。

（広報委員一同）

新潟県介護老人保健施設協会広報誌  
「老健にいがた」第35号

編集・発行 新潟県介護老人保健施設協会  
広報委員会  
〒959-2805 新潟県胎内市下館字大開1522  
介護老人保健施設やまぼうし  
TEL (0254) 47-3303  
FAX (0254) 47-3370  
URL <http://niigata-rouken.org/>  
印刷 野崎印刷株式会社